

# 呉空襲を心に刻んで

7月1日は、呉空襲犠牲者慰霊・恒久平和祈念の日です。本校においても、旗を半旗の掲揚とし、正午には、1分間の黙とうを捧げました。

今日、7月1日は、今から75年前、呉の町に爆弾が落とされ、多くの犠牲者が出た日です。

昔、日本は主にアメリカと戦争をしていました。戦争が終わりに近づいた昭和20年、アメリカ軍は飛行機で日本にやってきて、日本軍の大きな基地がある、いろいろな町に爆弾を落としていきました。その一つが呉の町なのです。

75年前の7月1日から2日にかけて、呉の町に爆弾が落とされ、呉の町は火の海になったそうです。その時、およそ2000人の人が亡くなってしまいました。

そこで、今から、その方たちのご冥福をお祈りするとともに、二度と戦争をしてはいけない、みんなで平和な世の中をつくっていくのだという強い決意を示すために、1分間の黙とうを行います。



半旗掲揚のもと、体育をしていた6年生



黙とうに先立ち、教頭先生が黙とうする意味を放送でわかりやすく説明



今日の給食  
「切干大根の炒め煮」と、戦争中に食べられていたという「すいとん」



体育でリレーをしていた6年生も、正午前には放送を聞いて、黙とうを捧げました。

当時、呉の町だけでなく、広の町も空襲を受けるようになり、三坂地国民学校の子供達も空襲を避けるために、親もとを離れて豊田郡竹仁村(今の福富)へ学童疎開をしていたそうです。三坂地小学校の校庭にある「友情之樹」の

石碑は、当時疎開していた学童が、30年後の昭和50年に当時の竹仁村の級友と交換した記念樹「ヒムロ2本」を植樹した際に建立されたものだそうです。

子供達には、今ある生活に感謝し、平和を願って過ごす気持ちを大切にする人になってほしいと思います。



プール前にある「友情之樹」の記念碑